

ソロスのビルダーバーグ会議への夢は、トランプのために 潰えた（上）

グローバリストの新世界秩序への勢いは、旧来の秩序の浮上とともに衰える

【訳者注】ビルダーバーグ会議とは何かが、ここで詳しく説明されている。それは、現代世界で絶えず起こっている、必要もないと思われる、すべての戦争やテロを決める、秘密会議である。我々の運命を決めるのだから、社会科や入試問題にも出るべき重要な世界会議のはずなのに、我々がその内容を知らされないのはもちろん、彼らの意向通りに、その存在そのものを、我々は見ざる知らざることにしてきた。

しかし、それによろやく変化が起こり始めた。それはトランプ大統領を通じてであり、トランプによって起こった変化である。「トランプが好きか嫌いかに関係なく・・・」と、繰り返し言っているところが肝要で、我々の世界に何が起こり始めたのかを理解する、カギがそこにある。

ソ連の共産主義過激派と、アメリカの New World Order 保守派の癒着の過程や、ロシアへの永遠の憎しみがどうして生まれたかも、わかりやすく説明されている。

Jay Greenberg, www.neonnettle.com

June 27, 2018



それほど遠くない昔、グローバリストたちの New World Order へ向かって突っ走る勢いは、止められないもののように思われ、市民はほとんど、この陰謀団に対して、なすすべもないかのようなようだった。

数十年間に及んで、世界の政治的かつ経済的エリート一団が、高度に秘密の年次集会、「ビルダーバーグ会議」のために集まっていた。

世界のリーダーや、選挙によらない寡頭（少数）政治家たちが、年に一度のこの会議に出席して、この惑星の未来を計画するために議論し、“アウトサイダー”はこれについて、何の発言もできなかった。

このグループは 1954 年に、オランダ王配ベルンハルトの提唱によって招集され、以来、120 から 150 名のヨーロッパ及び北米の政治的エリートが出席している。彼らは、産業、金融業、学界、及び主流メディアの首脳たちである。

https://en.wikipedia.org/wiki/Prince_Bernhard_of_Lippe-Biesterfeld

https://en.wikipedia.org/wiki/Political_elite

何年間も、これら私的な会議は、邪魔されることなく行われ、この地球的な陰謀団は何の干渉も受けずに、諸計画を決定していた。

一般の人々の目覚めと、インターネット時代の賜物である、情報の自由な流れが起こるとともに、これらの集会は暴露され、人民たちは、New World Order を終わらせ、旧来の秩序の民主主義への回帰を求めるようになった。

ジョージ・ソロスと NWO

長年にわたって、この「新世界秩序」の夢の駆動者で主導者は、億万長者ジョージ・ソロスであった。

あなたがドナルド・トランプを支持するか否かにかかわらず、誰も否定できない一つのは、彼が、ソロスのビルダーバーグの夢の終わりの**始まり**を、ついに導き入れたことである。

今のところ、「旧来の秩序」はかろうじてぶら下がっている——指の爪の先かもしれないが。



ビルダーバーグは、世界の政治、金融、産業エリートによって構成されている

MPNによれば、ビルダーバーグのビジョンは、旧来のナショナリズムを超える、多文化的・国際的なコスモポリタン主義、境界の終わりを先駆けるものであり、アメリカ主導の、“テクノクラート”的な、グローバルな、経済的・政治的ガバナンス（管理体制）である。

<https://www.mintpressnews.com/bilderberg-era-end/244731/>

そのルーツは、James Burnhamのような人物にある。バーナムは、反スターリン主義の元トロツキー派で、早くも1941年に、金融と経済の権力の行使は、管理階級の手によだねるべきだと主張した。すなわち、それはエリート集団で、彼等のみが、その市場と金融の専門知識によって、現代国家を運営することができると言った。

それはありていに言えば、専門の、テクノクラート少数者政治を要求するものである。



「目覚めよ」——市民が、ビルダーバーグに反対して立ち上がる

バーナムは、トロツキーとマルクス主義に対する彼の忠誠心を、1940年のそのすべての形において放棄した。しかし彼は、レオン・トロツキーの内なるサークルのメンバーとして学んだ、潜入と転覆の戦術や戦略は身に着けておいた。

彼は、トロツキイストの「アイデンティティ政治」（個別性尊重政治）の管理を、分断化“デバイス”にまで格上げし、これを西洋圏において、国民文化を爆破して新しい段階へと導く方法にしようとした。

彼の1941年の本『管理技術革命』は、直ちに Frank Wisner の注意を引いた。ウィズナーは、レジェンドというべき CIA の人物で、バーナムや、彼の同僚のトロツキー派 Sidney Hook の著作に、かつての反スターリン・トロツキー派の間に、活動的同盟を結べる見込みがあると見た。 <https://www.amazon.com/Managerial-Revolution-What-Happening-World/dp/0837156785>
<https://www.taylorfrancis.com/books/9781317365334/chapters/10.4324%2F9781315669847-17>

しかしそれだけでなく、ウィズナーは、その長所は、**CIA の主導する、偽リベラルの、米主導グローバル秩序の青写真**であることだと気づいた。

要するに、(Paul Fitzgerald と Elizabeth Gould が言ったように)「**1947年までに、ジェイムズ・バーナムの、共産主義過激派からの New World Order アメリカ保守派への変形は、完璧だった。**」 <https://www.truthdig.com/articles/how-the-cia-created-a-fake-western-reality-for-unconventional-warfare/>

彼の「世界の争奪」*Struggle for the World* [OSS (CIA の前身) のためにメモに転換された] は、トロツキーの永遠の共産主義革命について「加入戦術」を果たし、それを、グローバルなアメリカ帝国のための、永遠の戦闘計画に変えた。

バーナムの議論を完成させるのに必要なものは、ただ、永遠の敵だけであり、それには、ロシアへの憎しみを「何世代にもわたって」生かしておく、ずる賢い、心理作戦キャンペーンを必要とした。



抗議者たちは、秘密の年次集会の会場の外側に集まる

これは今日の我々とどういう関係があるだろうか？

見かけは中道派のヨーロッパの諸政党、見かけは独立したシンクタンク、研究所等、それに NATO 関連組織の“バーナム風景”は、CIA によって種をまかれたものだ——反ソ連主義の戦後を通じて——ヨーロッパと中東を通じて——アメリカ主導の、グローバル“秩序”のための、バーナムの“戦争計画”の一部として。

今日、政治的後退に直面しつつあるのは、まさにこのエリート、すなわちバーナムの少数政治テクノクラシーである。その後退ぶりは、リベラル派が、まさに生き残りをかけて「ホワイトハウス内の敵」（シュピーゲル・オンライン編集者）と戦わねばならないと感ずるほどになっている。<http://www.spiegel.de/international/world/donald-trump-s-attacks-on-germany-the-enemy-in-the-white-house-a-1214058.html>

何がこれを引き起こしたのか？

それについては、彼が好きだろうと嫌いだろうと、トランプ大統領が大きな役割を果たしている——言えないことを言うだけだとしても。

こうしたエックハルト流の「言わないこと」に内在する合理性いかなの問題は、関係がない。トランプの本能的な「言えないことを言う話し方」が、これまでのバーナム流のイデオロギー構造から、ほとんどのボルトを抜いてしまった。

しかしヨーロッパでは、バーナム青写真の2つの大きな欠陥が、この青写真の危機に、おそ

らく致命的に、貢献してしまった。第一に、逆の統計をもつ現実の解決策として、ヨーロッパを移民でいっぱいにするという政策である。「核融合に導くどころか、ヨーロッパの移民危機は核分裂に向っている」と、イギリスの歴史家 Niall Ferguson は言っている。

「この芝居は〈メルトダウン・ポット〉と名付けてもよいだろう。ますます、移民の問題は、未来の歴史家によって、EU の致命的な解体作用と見られるようになるだろう。

「彼らから見れば、Brexit は、この危機の単なる初期の兆候に見られるだろう。」

そして二番目には、エリートのグローバル経済の失敗管理によって、経済が 2 つの関係のない、不均衡な経済圏に 2 分したことである（すなわち、“万民の繁栄” などないことが明らかとなった）。



人民は、選挙によらないグローバル陰謀団の終結を要求している

(以上、前半おわり)